

Koryu

Ritto International Friendship Association

◎日本語を教えるには ～龍谷大学糸井通浩先生をお招きして～

RIFA日本語講師養成講座

ウイングプラザ研修室D 平成17年1月15・29日(土)

「指導ボランティアをしませんか」のタイトルで、龍谷大学糸井通浩先生をお招きして1月15日と29日の2日間にわたり日本語講師養成講座を開催しました。RIFA会員のほか、栗東市内、草津市、守山市、野洲市、近江八幡市から日本語指導に関心のある方々が参加、熱心に受講しました。

「日本語とはどんなことばか」について、発音・アクセントなど、『螢の光』や『お正月』の歌を例にあけてのわかりやすい説明をしていただきました。さて、あなたはどの歌？「こ～まを回してあそびましょ」か、「こまを～回してあそびましょ」か。とはいっても、日本語指導において、アクセントはそうこだわらなくてもいいのではないかというお話しに少し安心しながら、それでも、『ビーナッツ』『南京豆』『落花生』など物の違いにこだわる、相手がだれであるかによって呼び方を変えるなど、日本語の複雑さをあらためて学習しました。



RIFA 日本語指導ボランティア募集

RIFAでは、毎月第2・第4土曜日(午前10:30～12:00)に、在住外国籍住民のための日本語教室をマンツーマン指導で開催しており、ブラジル・ペルー・中国・アメリカ国籍の方々熱心に学習されています。ご協力をお願いします。

◎早春の古都をたずねて

第21回異文化交流サロン

文化事業委員会

平成17年2月27日(日)



牛さん(左)、城さん(右)、熱心に給付け

久しぶりのバスツアー。朝から心配された雪空もすっかり春の青空に変わり、学園の神様として有名な北野天満宮を拝観、お茶とお菓子をいただきながら早春の50種類、2000本といわれる梅の花を楽しみました。西陣織会館では着物ショーを見学、外国籍参加者もきれいな着物にうっとり。お食事の後は、向かいの考古資料館で京都市の各時代の発掘物や桃山時代の陶器展を鑑賞しました。最後に、京都駅南方の清水焼工房で、湯飲みに絵付けをしました。それぞれのオリジナル湯飲みが出来上がりが楽しみです。作品が届く4月には、そのお湯のみでの茶話会が開催されることに決定しました。

◎われらが武村慈子さん、ブラジルへ

RIFA日本語教室で、日本語指導をしてくださっていた武村慈子さんが、本格的に日本語指導の勉強をされ、このたび、JICAの日系社会青年ボランティアのプログラムに応募、ブラジルはサンパウロの西180キロの町、サンミゲル・アルカンジョ市に日本語講師として派遣されることになりました。出発に先立って1月6日、栗東市長を表敬訪問しました。市長からの激励の言葉に、武村さんは「日系社会の1世、2世の方々の思いに応えられるよう、頑張りたいと思います。」と答えました。

1月12日に日本を出発、サンミゲル・アルカンジョ文化協会にて2年間、日本語のほかに、折り紙などの日本文化も紹介することになっています。2年後の武村さん、どんなお土産話を持って帰ってくるのか、今から楽しみです。



平成17年1月19日(水)



ヴィヴィエン・リーさん

韓国生まれ、ニュージーランドで育ったヴィヴィエン・リーさんは、数年前、県立国際情報高校に留学しました。RIFA会員の明田孝雄さんご家族がホストファミリーを引き受けて以来、本当の家族のようなお付き合いをしています。今回の再来日中にRIFAで茶話会を開催しました。7歳でニュージーランドに移り住んだヴィヴィエンさんは、家庭では韓国語を話し、一步外に出るともちろん英語。ニュージーランドで日本語を学習したそうですが、実際の日本での生活は1年足らずだということに、まるで日本人のように話します。

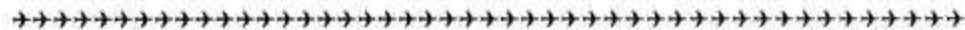
ニュージーランドの雄大な自然と感動しながら楽しいお話を伺いました。学校には中国人、韓国人、原住民など、いろいろな国籍の人が通っているが、みんな尊重しあっているという言葉が印象的でした。「日本人は働きすぎだ」という彼女、羨ましいようなお話もしてくれました。ニュージーランドでは社会人の帰宅時間が早く、男性が家事をするのも当たり前で学校の休みの期間もずいぶん多いそうで、家族で自由な時間を満喫している様子が目に浮かぶようでした。



プラスチックの紙幣は透けてみえる



珍しいお菓子（蛇の形をしたきれいな緑色のグミのようなもの、兵士が戦場に持っていくという1枚で結構ボリュームのあるクッキーなど）や、プラスチック製の紙幣の披露もあって、みんな興味津々の様子でした。老後はニュージーランドで過ごそうかなど考えた人も多かったのでは？



ルミ子の海外レポート（4）～14日間エジプトひとり旅（2）～

次に1泊2日でフルーカという帆船に乗ってルクソールへ。フルーカとは定員10人位の小さなヨット、船上にはマットが敷かれているだけの簡単な造りで夜は満天の星空を仰ぎながら夢の中へ。食事はターワード・パシャ（ミートボールをトマトスープで煮込んだ料理）を暖めたものとアエーシ（パン）といった簡単な夕食でしたが、他の乗客と一緒に食べる味はまた格別でした。しかし到着日は風に左右されて予定通り航行せず、手前のエドフで降りた私は、その日最終のルクソール行きの長距離バスに飛び乗り胸をなでおろした一日となりました。ルクソール内移動には主に個人マイクロバス（一回約5円）を活用。適当に道路に立っていて、乗りたい意思を表示して搭乗し、降りたい所をリクエストして下車するという地元住民の足。観光客である私は1ポンド（約20円）を要求されることも多く、最初からお釣りなしで対応し、支払ったらさっさと降りてしまうという知恵で対抗、そんな駆け引きが面白くて何度となく利用しました。メインとなる道路のほとんどを見学し4日間を残した私は、夜行長距離バスで、ダイビングのメッカ紅海のふもとハルガダに到着。3日間ダイビングのオープンウォーターの免許が取れるとあって気合十分に取り組みました。どこまでも広がる青い海、人懐っこくついて来るイルカの群れ、そしてなんととっても初めて目にする神秘的な海底に魅了されあつという間の3日間でした。エジプト最後の夜、カイロに向かう夜行長距離バスの中、ダイビング免許を抱えながら熟睡できたのは、試験をなんとかパスさせようと必死になってくれたインストラクターの方々のおかげでした。

この旅行で得たものは、喧嘩して途中で降りたタクシーの運転手を除き、さまざまなエジプト人の“人の良さ”に触れることができたことです。ちなみに一泊平均120円～180円の安宿、一食平均30円～50円の地元料理で過ごすことができたので、航空チケット代、ダイビングのスクール費用込みでトータル9万円以下に収まり、目的達成の成功旅行に大満足して、朝焼けのエジプトを後にしました。

今回で、私の海外レポートは最後となりました。1年間、どうもありがとうございました。
井上ルミ子



最近の国際情勢を考えると、イラク戦争、パレスティナ問題と中東のイスラム諸国に関連したニュースがとても多い。そこで僕は、一ヶ月の中東旅行をして、イスラムの国で人々がどんな暮らしをしているのかこの目で確かめてみたいと思った。それが今回の中東旅行の動機だ。

関西国際空港からエミレーツ航空で中東へ。11時間くらいで最初の目的地、ヨルダンのアンマンに到着。雖然とした町並みをバスで空港からダウンタウンまで走り抜ける。目的のクリフホテルは、残念ながら事件に巻き込まれ、悲しい出来事となった何人かの日本人が滞在したところだ。従業員サーメルはとて親目的で、なにか頼んでサンキューと言うと、必ず日本語で「どういたしまして」と返してくる。滞在中もやたらと面影を見てくれて、夕食やコーヒーを何度かただでご馳走になった。事件の時はテレビにも出ていたので、日本でも知っている人は多いと思う。彼はペトラや死海など観光地に行くときは、その行き方を紙に書いて渡してくれるので、それを持って僕も多くの観光地を訪れた。



クリフホテルの従業員サーメル(左)と



ペトラのエル・バズネ

ペトラの次に訪れたのは、死海。塩分が多くて生物の住めないこの海はヨルダンの観光スポットで、年中海水浴客が絶えない。行くときはバスを利用したが、帰りはバスがつかまらなかったためヒッチハイクを利用した。ヨルダンは気のいい人が多くて、すぐ乗せてくれる。死海に1時間ほど浮かんでいて、体がひりひりしてきてすぐあがってしまった。帰りは寄り道して、マダバという小さな町を見た。マダバにはキリスト教の教会が多くあり、そのモザイク画は一見の価値あり。なかなかのものだった。

「アラビアのロレンス」という映画をご存知だろうか？ 第一次大戦中、イギリスのロレンス将校がイスラムの民ベドウィンを率いてトルコと戦った映画だが、その撮影現場となったのがワディ・ラムと呼ばれる砂漠地帯だ。僕はこの砂漠をジープで駆け回り、夜はベドウィンのテントで料理を食べ、そこで眠るというツアーに参加した。赤茶けた砂漠に夕日が沈んでいくさまはとて美しく、楽しいキャンプとなった。ツアーと一緒に参加したドイツ人の兄妹と一緒に夜は歌をうたったり、昔の恋愛の話をしたりしておおいに盛り上がった。そんなふうにしてヨルダンの滞在を終え、僕は次の目的地、シリアのダマスカスに向けて出発した。



ベドウィンの人達

ヨルダンのほかにシリアとレバノンも訪れたが、スペースの都合で割愛する。中東の人々はいいい人ばかりで、血なまぐさい戦乱を思わせるものはほとんどなかった。日本からもより多くの観光客が訪れ、そのよさを認識してほしいものだ。



ペトラの観光ガイド